

6003

謹啟然バ拙者儀今般領事安藤太郎氏ト共ニ本邦へ歸
着致則チ南支那及ヒストレト新嘉坡邊へ日本銀貨
ヲ發行致候一條ニ付拙者取扱ノ次第逐一大隈公閣下
へ上申致置候間此段申上候猶又右ノ一條ニ付同閣下
ノ再度ノ御指圖ヲ相待居候間何分ノ御沙汰次第香港
へ歸航可致心得ニ有之候
諸又支那政体ノ件ニ付テハ格別記スルニ足ルベキ程
ノ事モ無之候

福建ノ知事チン氏ハ遂ニ断然ト辭職被致候
右テニ撫臺ハ嚮キニ台灣ニ於テ有益ナル龍擊ヲ行ハ
レ候以來再ヒ旧ノ知事職ニ復任セラル、儀有之間敷
段拙者數月前ニ貴下へ御通知申上候得共然レ元來老

衰ニ因テ勤務ニ堪エザル者ノ外貴顕ノ官吏タル者ガ
謂レナク郷里ニ退隱候事ハ北京政府ノ確乎タル改畧
ニ於テ決シテ許サバル所ニ付今同氏ノ如キ有カナル
官吏ガ退職致候ハ頗フル非常ノ事件ニ有之候
右ノ次第ニ付テハ撫臺ガ只今ノ年齢ヲ以テ退隱ノ勅
許ヲ蒙リ候ハ果シテ非常ノ權勢ヲ振フノ力アル者
ニ無之テハ不相成候
北部ノ凶歉ハ不相變慘酷ヲ極メ北京政府ニテモ一方
ナラサル配慮ニ候湖南ハ大分ノ降雨ニテ土地モ潤ヒ
又直隸山東ニテモ少々ノ降雨ハ有之候ハ共山西ノミ
ハ今以テ一滴ノ雨モ無之又湖南直隸並ニ山東ノ收穫
ハ大抵三分一ヨリ半分通り迄ノ実入りハ可有之ト筭
當致候

支那南部ニテ本月ハ米ノ第一ノ刈収ヲ為スベキ月ニ
當リ候処上作ノ田方ハ随分実入りモ宜シキ様ニ相見
ヘ候又此頃廣東ヨリノ穀ニ當地米穀ノ收穫ハ固ヨリ
僅少ニハ可有之候得共然シ預テノ見込ノ如キ少数ニ
ハ有之間敷ト申越候

右支那ニテ收穫ノ僅少ナル実況ト又柴棍並ニヒリッピ
ンニテ米穀ニ完乏ナル有様トニ付テ熟考致候ニ日本
ニ於テモ預テ豊作ヲ保全スベキ適宜ノ預防法ヲ施サ
レ候ハ最モ緊要ノ事ト被存候

諺ニ多雨ハ日本ノ為メニ最モ惡シキ氣候ナリト故ニ
多ク米穀ヲ產出スル地方ニ於テハ能ク其近傍ノ溝渠
並ニ水理ヲ疏通シ預メ多雨ニ會スル時ノ備ヘ無之テ
ハ相成不申嚮キニ日本ガ雨湿ノ害ヲ蒙リ候テヨリ既

ニ七年ニモ相成候間溝渠水理ニ大方閉塞致居候事ト
存候

又早魃ノ場合ニ當リテハ産米地方ハ預テ安價ナル適
宜ノ唧筒ヲ備ヘ己ムヲ得ル時之ヲ以テ田方ニ灌水
スルノ設ケ無之テハ相成不申モ日本ハ何処ニ於テ
モ大抵地面ヨリ数尺ヲ穿テハ水ヲ得候ユヘ高野、米
田ニ灌水スルハ強テ六ヶ敷方法ヲ用ユルニモ及ビ不
申候

右ノ通り拙者ノ見込ヲ陳述致候モ実ハ日本ニ於テ数
年前早魃ノ時ニ會シ此簡便ナル灌水器械ノ設ケ無之
ヨリ貴重ノ米穀ヲ多ク損失セシマアルヲ思フテノ故
ニ有之候

台灣島鶏籠ノ石炭坑ハ資本金不足ノ故ヲ以テ暫ク休

業ノ姿ニ候間目下日本ノ礦山ニ競争スヘキ良坑ハ差
當リ見ヘ不申因テ日本石炭ハ支那ニ於テ漸次聲價ヲ
得候ニ付九州莫ニ北海道ヨリ産出ノ石炭ハ支那市場
ニ於テ大分ノ利益ヲ生シ候様相成可申ハ疑ヒ無之候
煤棍莫ニ暹羅ノ海塩貿易ハ廣東州ノ洪水ニテ同所ノ
塩場ヲ破損セシメ去ル二年間ニ夥シク賣廣メ候拙
者モ先般此事ニ付配慮致候儀モ有之候ヘ共何分日本
塩ハ品質精良ニ過タル様相見ヘ候元來支那人ノ需用
致候塩ハ甚タ粗惡ノ品ヲ貴ヒ候ニ付若シ長州ニテ粗
質ノ塩ヲ製造相成候ハ、随分有益ノ商業モ可有之又
塩ハ先般一担ニ付一弗十セント以上ニ騰貴致候處當
今ニテハ凡ソ八十七セント位ノ相場ニ候
廣東ノ塩場ハ本年モ亦更ニ破損致候由モ損害ノケ所

明治二十八年

大正官

ヲ悉皆従前ノ如ク恢復致候ニハ数年ヲ過ゴシ可申候
得共然レ来年ニ相成候ヘバ粗々脩繕モ行届キ可申ニ付
日本ニテ利益ヲ得ントスルニハ今コソ失フベカラサ
ル好時機ニ候
古申上候也

千八百七十八年

東京築地二丁目十六番地

六月十七日

ジョーシロツトマン

太政官大書記官

土方久元 居

貴下